

出題傾向の 解説&解答の ポイント

2019年度 一般入試A日程(1日目)の 「国語」を詳しく解説!

国語

出題形式

大問は2つで、すべて五者択一のマーク式。第1問は3000字程度の社会学の評論。硬質な文章で、使用されている語彙(い)のレベルも高い。評論を読み慣れている受験生でなければやや苦労したかもしれない。第2問は芥川賞作家が、カミュの小説『ペスト』の読後感を語ったもの。ただし、『ペスト』という小説を知らなくても読解に困難はない。第1問と較べると文章は素直である。

第1問は設問数12で、漢字(傍線部と同じ漢字を使うものを選ぶ)、語義、主語を問う問題、脱文挿入、語句の空欄補充、内容理解に関するもの、内容合致である。漢字の問題のレベルがやや高く、空欄補充問題の選択肢や語義の問題のレベルもやや高い。内容に関する設問は標準的なレベルであるが、文章自体が硬質で読みづらい分、難しいと感じた受験生もいたかもしれない。

第2問は設問数9で、漢字問題は傍線部の漢字と組み合わせる漢字を選ぶという珍しいスタイル。一問だけ傍線部の漢字の上に漢字を足して熟語を作るものなのでやや難しい。後は文学史、語義、副詞の空欄補充、内容理解に関するもの、内容合致的な問題である。こちらも漢字の問題、語義の問題のレベルがやや高い。内容に関する設問は標準的である。

解答のポイント

まずは読書や漢字の問題集の学習を通して語彙(い)力の強化をはかることをお勧めしたい。本年度の第1問のような文章は内容も高度で、また、使用されている語彙もややレベルが高い。ある程度の語彙力を持ち、普段から堅めの評論を読み慣れている受験生でないとなかなか読みこなせない文章であった。また第1問、第2問とも、漢字問題や語義の問題のレベルが高い。よって、普段から新書などを読書し、やや専門的で高度な文章に慣れるとともに、漢字の問題集に取り組むのがよい。そういう努力をする中で、評論で使用されるような語句に出会い、知らないものはこまめに辞書を引いて、語彙力の強化に努めること。空欄補充問題についても、選択肢の語句の意味を知らなければ判断できないのである。

その上で、私立大学向けの問題集に取り組む。当大学の設問は一般的なものである。一般的な私大向けの問題集であれば、似たような設問形式に出会える。問題集に取り組む中で、空欄補充問題や、内容説明問題、理由説明問題といった文章理解に関する設問、内容合致問題などの練習をすること。なお、その際、なんとなく本文を読んで選択肢を読み「これが答えかな」というものを選ぶというやり方ではいけない。空欄補充問題なら、その空欄を含む一文を押さえたり、前後の文脈を踏まえたりした上で、解答根拠を意識して選ぶこと。内容理解型の選択肢も、選択肢選びに必要なのは本文記述にもとづくことである。「本文のここにこう書いてある以上、この選択肢のこの部分は良いし、この部分は一致しない」ということを意識して選択肢の適否を判断すること。

なお問題集に取り組むことで、入試レベルの文章に読み慣れ、知らない語句を調べて覚えていかねばならないことは言うまでもない。